

みたかハンディキャブ誕生40年

設立：昭和53年（1978年）12月9日



真心と笑顔で走るハンディキャブ ！

みたかハンディキャブ設立40周年にあたって

特定非営利活動法人みたかハンディキャブ
理事長 宮田 榮一

三鷹市ハンディキャブ運営委員会設立総会が、昭和53（1978）年12月に開催され、市民活動団体による移動サービスのさきがけとなる活動が開始されてから、40周年を迎えることができました。

障がいのある方々や介護を必要とする高齢者の外出支援の活動を40年の長きにわたり継続することができたことは、ひとえに、三鷹市をはじめ、ボランティア、利用者の皆様、賛助くださった個人・事業所のご支援、また幾多の苦難を乗り越えるために献身された先人の活動のたまものと、深く感謝申し上げる次第です。

平成11（1999）年には、東京都知事の認証を取得し、「特定非営利活動法人みたかハンディキャブ」に改組することができました。

この40年間、安全安心な運行をモットーに運行を続けることができたことは、みたかハンディキャブの誇りでもあります。またこの40年の歴史の中に私自身が参加できたことは、光栄なことです。

高齢化が進む今日、ご利用を希望する方は、増加の一途をたどっています。一方ボランティアの高齢化も進み、当会の運営は、日々厳しさを増しています。みたかハンディキャブは、新たなボランティア会員の加入を図り、次の50周年をめざして、障がい者・要介護者の皆様の外出のお役に立てるよう努力を続けていく所存です。

また運行の安全を確保するため、安全運転のための不断の研修、運行規定の充実などの取り組みも強化します。関係各位の益々のご支援・ご鞭撻のほどお願い申しあげる次第です。



10年間の歩み

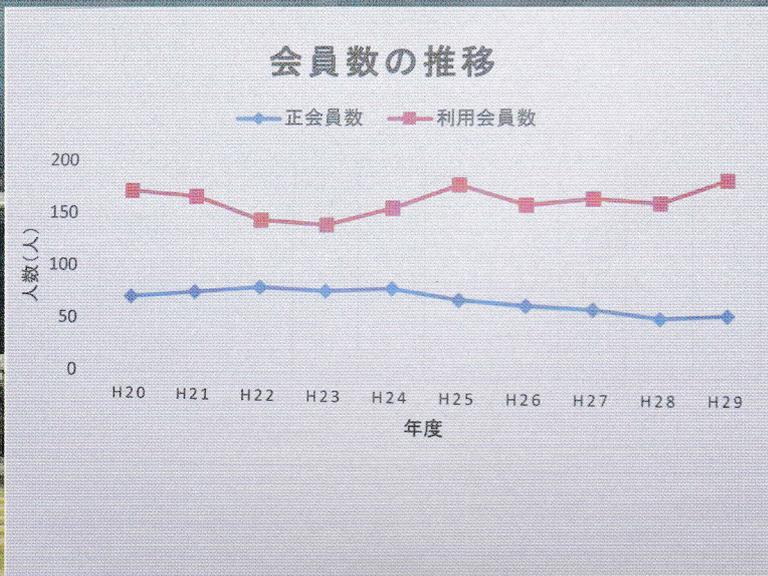
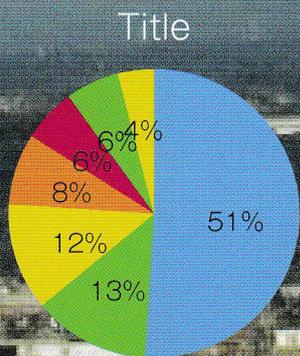


走行距離、件数ともに
やや漸減傾向か・・・。

利用目的

- 70% 通院・通所
- 12% 買物
- 6% 旅行・趣味

正会員数（運行ボランティア）が漸減傾向
平均年齢64歳は変わらず



- 通院・リハビリ
- 通所
- 買物
- 通勤
- 旅行・趣味
- ショートステイ
- その他

現在の保有車両8台



10年間の歩み

東日本大震災、津波被害の後にも熊本・広島・茨城・北海道など台風・水害・地震で多くの方が被災した10年でした。
三鷹市周辺では幸いにしてそのような災害もなく比較的平穏無事な10年間でありました。

2009年（平成21年）

新A号車（日本テレビ24hrTVより贈呈）出発式のTV放映

2010年（平成22年）

東日本大地震被災者支援のためのボランティア活動
三鷹市より感謝状及び記念品の授与
10月台風のため日帰り交流会中止

2011年（平成23年）

街頭募金活動
岩手県釜石市「愛恵会」へ車両提供

2012年（平成24年）

ハンディキャブ運営上の課題対応を開始する
（利用規定改訂、運行管理体制の再構築、自治体との連携等）

2013年（平成25年）

ちょこ旅、買い物ツアーの開始
自家用有償運送者登録更新
及び利用料金改定



2014年（平成26年）

ボランティアセンター建て替えに伴う仮事務所への移転
3/14 D号車贈呈式、7/25 F号車贈呈式

2015年（平成27年）

定款の改訂、規定の制定と改定、運行システムの再構築、事務局の体制整備
三鷹市とパートナーシップ協定の締結



2016年（平成28年）

新事務所への移転
「福祉車両を送る会」基金活用によりG号車購入



2017年（平成29年）

事務局の週休2日体制の構築と運行依頼受付の変更



2018年（平成30年）

ボランティア不足対策委員会立ち上げと具体的対策の実施開始
みたかハンディキャブ設立40年の歩みの記録をまとめる



部門別活動報告

☆総務部（事務所）

毎年春に開催される総会に向けて、キャブの運営、財務管理、理事会等の会議主催を40年間変わらずに行っているのが総務部の仕事です。特定非営利活動法人となつてからは、より詳細で明確な管理、運営ができてると自画自賛しています。

働きの女性職員もあり、利用者さん、ボランティアさんへの明るい対応が喜ばれています。



☆運行部

“みたかハンディキャブ”が40周年を迎えられ、この運営に協力と支援をなさっている多くの皆様に感謝の気持ちで溢れています。今私はその仲間である事が楽しくて！！

借り物の車一台から始まった送迎活動も延べ30台近くの“あおぞら号”で地球70周分程の走行距離に達しようとしています。三鷹市とは「パートナーシップ」を結び日々安全・安心はもとより信頼を得られる運行体制作りに協力しています。

「禅林寺龍華会基金」様はじめ多くの寄贈団体の暖かい支援で運営されています。寒い時・暑い夏も畑で精根尽くし育てた大根・白菜・枝豆等を販売して得たお金やボランティアさんの支援・利用者さんからの寄付等「送る会」からの原資で代替え車両を購入する事が出来ました。有難いですネ！

利用者さんの中にはよちよち歩きがやっと出来るほどの幼い子がいたずらをして、手話で自分の気持ちを伝えられるほどの成長を見ると嬉しくて！！ボランティアのエネルギーなのです。

車両もボランティアも次から次へと変わっていきますが、25年先もその先もキャブの運営が続いていくようお願いします。



☆交流部

キャブ発足の40年前当時は、路上を車いすで移動する方を見かける事はあまり無かったと記憶しています。まして車いすのまま気軽に自動車に乗って移動することなど考えることもできませんでした。そのような移動困難者を、通院・通所・レジャー等気楽に外に出掛けられる機会を作ろうという目標でキャブの活動が始まりました。

交流部の活動も利用者さんとボランティアさんの交流の場を作ってお互いを理解したいとの思いで昭和56年10月ボランティアセンターの中庭での「交流会」から始まりました。その後毎年三鷹市からバス「ふれあい号」の提供を受けて一泊交流会・日帰り交流会を開催してきました。諸事情で中止をしたこともありますが、今日まで「交流会」はキャブの重要な年間行事の一つとして多くの利用者さんに喜ばれています。

その後移動困難者に対する世の中での取り組みも向上し、身近な公共交通手段であるバスにも車いすのまま乗り込むことが出来るようになり、多くの鉄道の駅にはエレベーターが設置されて40年前とは変わってきています。一方でキャブが「一泊交流会」で何度も利用した三鷹市の保養施設「みたか荘」が平成25年度末で閉鎖、栃木県障害者保養センター「那珂川苑」も平成31年3月で営業を終了します。安価で我々が使いやすい施設が無くなりつつあります。

お手伝いいただけるボランティアさんの高齢化と人数不足もあり、キャブ誕生40年の節目に「一泊交流会」の中止を決定いたしました。これからは年2回の「日帰り交流会」で今まで以上に利用者さんとボランティアさん相互の交流の場にしていきたいと思ひます。

